学校だより

12月号

令和５年１１月３０日
横浜市立能見台南小学校

学校ホームページ
ＱＲコード

失敗から立ち上がれる子を

校長　榊原　一紀

今月は、異学年グループによるなかよし遠足が行われました。動物園での周るコースやお弁当の場所などを自分たちで計画しました。高学年の子どもたちはお兄さんお姉さんとして、低学年の子どもたちはグループの一員として、協力して進めていました。

先日、金沢区幼保小教育交流事業の講演会に参加しました。講演されたのは、コーチングのプロフェッショナルコーチである橋口奈生先生のお話でした。右利き・左利きがあるように、私たちが情報を獲得する方法にも得意・不得意があるとのことです。視覚で捉えることが得意、音や言葉からが得意、触感や動きから捉えることが得意、文章からが得意など、それぞれ違ってくるということでした。相手の得意な感覚を考えてコミュニケーションをすることで、より伝わることがあるそうです。子どもと接している私たちも、話して分からないことを、絵にしたり、実際にやってみたりするとすぐに理解できるといった経験はあります。話を聞いて、相手を知ることが大切であるということを改めて認識する良い機会となりました。

また、講演会の中で印象に残ったのは「失敗をしないようにするのではなく、失敗から立ち上がれるように育てる」という話でした。

３０年程前になりますが、私の先輩が「失敗から学んだり、立ち直る方法を示してあげたりすることが成長には大切だ」という話を、毎年４月の懇談会で必ずしていると教えてくださったことを思い出しました。

小さなけがを通して、子どもたちは危険を感じ、危険から離れていくことができる。ちょっとしたトラブルを通して、相手の気持ちを考えたり、接し方を学んだり心が成長する。私たち大人は、子どもが失敗して悲しんでいる姿を見るのが嫌なので、どうしても先回りしてしまうことがあります。でも、けがやトラブルを大人が前もって回避するようにしてしまうことで、学ぶ機会を奪っているのかもしれません。さらには、将来大きな壁にぶつかったときに、立ち向かう力をも育てられないのではないかと心配になります。だからこそ、社会に出る子どもを想像して、失敗しても困らずに立ち上がれる方法を示していきたいと感じています。

個人面談では、これまでのお子さんの様子について情報交換をされると思います。社会に出る子どもたちの姿を想像して、「大切なことは何か」を考えながらお話しされるのはいかがでしょうか。